

令和5年11月9日（木）13:27～

産業福祉常任委員会

安平町議会視察

■安平町議会 多田議長挨拶

■沼田町議会 伊藤委員長挨拶

■安平町商工観光課 村上課長、横谷主幹説明

- ・人口減少などで将来が不安であった。
- ・金銭的支援 創業支援事業補助金
- ・トレーラーハウス型チャレンジショップ運用して2年目。
- ・起業家チャレンジ

安平町に移住して町内で事業を起こしたい意図を募って、自分がやっていきたい事業を役所も応援している。

3年目→過去2年間で3名

- ・既存事業者の支援も必要と考えている。
- ・事業継承マッチングサイトへ登録も始めている。
- ・創業支援事業について、店舗を持たなくてもパソコンだけで商売できる事業をどうするか整理していく。例えばユーチューバーやネット通販など。ユーチューバーの申請が1件あり、安平町の活性化になるものとの条件で許可する案件である。条件については、許可書に書いてある。ユーチューバーは、産業分類表にも入っている。
- ・ベーシックインカムについては、地域おこし協力隊として3年間援助する。審査は書類審査で交付決定をし、各種手続き（保健所など）を終了した者をフォローしている。
- ・巣立ち支援ネットワークは、年2回ネットワークとして会議を行い、例えば商工会は書類の支援をしている。
- ・ファンファーレあびら起業家カレッジは、自費で参加してもらっている。今年は10名が参加予定。移住と起業を連携させている。ビジネス合宿はお見合いのように様々な分野の話を聞ける場である。メンターからのダメ出しが半端ない。
- ・トレーラーハウス型チャレンジショップは車両として持つことができる。建物は建設費がかかる。2棟あり1つはカフェでもう一つは女性のコミュニティスペース。賃貸は原則1年間で延長で最大2年。現在カフェを営業している人は店舗を探しており、コミュニティスペースの人はなかなか場所が無く苦労している。カフェについては、町民からカフェが欲しいという要望が多かったので、満足度が高い。
- ・既存事業者から第三者への事業承継についてはアンケートをとった。以降に沿って新しい事業者を探したりしている。

Q創業を支援した具体的な業種は？

A飲食3、ゲストハウス2、アロマ1、映像1。年代は40から50代が多い。
ゲストハウスはカレッジ出身の20代。

Qクラフトビールの支援は？

A協力隊として3年間支援し、起業する場合は町の補助と足りない場合は、公庫からの借り入れで対応することとなると思う。

Q協力隊になるためのハードルを上げているようだが。上げた理由は？増やしたいのであればすべてOKにする方法もあると思うが。

A協力隊の募集には3種類あり、1役場の仕事、2飲食店など企業が事業拡大したい、3創業者型（ファンファーレ）

Q3の効果は？

Aカレッジに入るとスパーリングにあったように、どんどんスキルアップしていく。イメージしたものが良くなっていく。

ファンファーレ1年→協力隊3年→起業

Q巣立ちネットワークに金融機関が入っているのが良いと思う。

A小さい町なので、金融機関も近い距離にある。経営部分の相談を受けたりしている。起業する時の資金が不足している場合の融資の相談も受けている。

ファンファーレでいろいろ体験して創業塾で経営の基本的な知識をつけてもらう。ファンファーレは本州の人も自費で安平町まで来るので、本気度が高い。

隣の厚真町ですでに実績があるので、形になれば人は来ると確信していた。

以前の協力隊は定着率が低かったが、この形になってから定着率が高くなった。

Qどのように募集しているのか？

A町のHP、ファンファーレ、株大人が宣伝している。

Q新しいビジネスに繋がっているか？

A現在、町内にないものが欲しい。違う業種のサービスが繋がっていくのも負いと思っている。

Q今後企業などの募集などについて、需要はあると思うか？

A担当としてはあると思う。早来学園というのがあり、からめると需要がある。

合併時9000人の人口が7000人になり減るのが止まった。新築住宅が増えて、子育て世代が転入している（早来学園の影響）

Q沼田町は店舗兼住宅が多く、事業継承が難しいが。

A安平町も同様であるが、アンケートをとった際に店舗だけを貸すこと可能だとかの内容を入れた。店舗兼住宅の方が引っ越し際の補助は無いが、なんとか店舗を減らさないようにという思いで取り組んでいる。

チャレンジショップの人も商工会員になっている。

Q既存店舗への補助はあるのか？

A来年度に向けて既存商店の改修だとかの補助を考えている。

14:40 会議室での話しは終了し、チャレンジショップへ場所を移動して説明を受ける。

令和5年11月10日（金）9:57～

産業福祉常任委員会

喜茂別町議会視察

■喜茂別町議会 日下議長挨拶

■喜茂別町 内村町長挨拶

■沼田町議会 伊藤委員長挨拶

■喜茂別町まちづくり振興課 井原課長説明

- ・郷の駅はまちづくり交付金で整備した。
- ・利用客はレジ通過者で5000人／月ほどである。
- ・郷の駅での販売は、既存商店とのバッティングは無いのか？
例えばお菓子屋さんで、今までは既存の商店を知っている人だけが買っていたが、郷の駅で販売することによって、今までとは違う人も買ってもらえる。
農作物も農業者だけではなく、家庭菜園で作っている自家野菜も販売している。
- ・チャレンジショップは、ほっときもべつが運営している。商品の手数料は当初20%もらっていたが、現在は25%の手数料をもらっている。

会議室での話しは終了し、郷の駅へ場所を移動して説明を受ける。